

Statement of Direction

ORACLE FUSION MIDDLEWARE

Oracle Portal

Statement of Direction

2009年3月

すべての日付が変更される可能性があるのでご注意ください。

はじめに

ミドルウェア市場は、飛躍的な進歩を続けています。最善かつ標準ベースで、ホット・プラグブルな事前統合済みの製品群の包括的なポートフォリオにより、オラクルのミドルウェアの収益は 2006 年に 10 億ドルを超えました。ポータル・テクノロジーは、オラクルのミドルウェア・スタックの主要なレイヤーで構成されます。ポータル・アプリケーションのタイプは、単純な Web コンテンツ・ポータルからビジネス・プロセスや複合アプリケーションを使用する現在のポータルに進化していますが、個別のコンテンツ、サービス、およびプロセスをビジネス・ユーザー向けの実用的な生産性ツールに統合する基本的なニーズは同じです。同時に、通信の新しい形態であるインターネットが導入され、人と情報を結ぶ対話方法が根本的に変化しています。世界中に重要な顧客基盤を持つオラクルは、この分野の先進性における優れた実績を残してきました。今後もこの市場をリードしていきます。

BEA の買収によって、製品とテクノロジーの補完、ミドルウェアの専門知識を持つ革新的なチームの編成、戦略市場における立場の強化、パートナーおよびチャネル・エコシステムの拡大が実現しました。これらの基本的な変更を踏まえたこのドキュメントの目的は、(1) Oracle Portal の今後の予定を説明すること、(2) 現在 Oracle Portal を利用している顧客または利用を予定している顧客に対して、Oracle Portal テクノロジーのガイダンスを提供することです。ドキュメントは、以下の項で構成されています。

- Oracle Portal 製品戦略
- Oracle WebCenter Suite 製品戦略の概要
- Oracle Portal の顧客に向けた推奨事項

Oracle Portal 製品戦略

Oracle Portal は、4 回の主要リリース・サイクルを経て現在の構造へと大きく進化しました。現在の構造とは、数百万のユーザーがコンテンツおよびデータにアクセスする微調整可能でミッション・クリティカルなアプリケーションです。当初から、Oracle Portal は、生産性と機能の一意な融合を実現していました。Oracle Portal のポータル開発に対するウィザード・ベースのアプローチによって、コストのかかるプログラミングおよびメンテナンスが最小化され、ポータルの迅速な構築および展開が容易になります。

Oracle Portal 開発の優先事項として、ポータルの構築および拡張にブラウザ・ベースのツールを使用するビジネス開発者のニーズに今後も焦点を当てていきます。全体的に、新しいレベルの柔軟性、拡張性、およびパフォーマンスに改善が集中します。オラクルは、一意な顧客要件の対処およびビジネス・アプリケーションとの簡単な統合を行うために、製品をプログラムで拡張するオプションをさらに提供して、比類のない優れた生産性と使いやすさを今後も維持していきます。

Oracle Portal 10g Release 2 (10.1.4) は、上記の開発の優先事項を満たす主要機能を搭載したリリースでした。Oracle Portal 11g の機能は、Oracle Portal 10g Release 2 (10.1.4) で導入された機能に基づいて構築および拡張される予定です。

Oracle Portal 10g Release 2 (10.1.4)

Oracle Portal 10g Release 2 (10.1.4) では、4 つの主要リリースのテーマをサポートする、以下の重要な新機能を追加しました。

- ビジネスの即応性を向上させる包括的なフュージョン機能の有効化：ポートレット標準 (WSRP/JSR 168) や Oracle Portlet Factory のサポートなどの異機種環境およびサービスの統合に使用される改善されたツールと組み合わせた Oracle Business Intelligence、Oracle BPEL Process Manager、Oracle Identity Management などのオラクルのミドルウェア・コンポーネントとサービスの緊密な標準の統合によって、企業全体のデータ、コンテンツ、およびアプリケーションの統合が容易になります。
- ポータル・コンテンツ管理と公開の機能の展開：宣言的なページ設計、ポートレット設計、およびコンテンツ・ウィザード、基礎となるコンテンツ管理リポジトリの強化機能によって、公開機能が大幅に拡張されます。これによって、ポータル・コンテンツの管理が効率的になり、幅広い顧客固有の拡張がサポートされます。
- 高度な柔軟性およびパフォーマンスのアーキテクチャの有効化：基礎となるポータル・アーキテクチャ、ポートレットの実行とレンダリング、およびキャッシングの改善によって、高度なトポロジの構成と全体のパフォーマンスの向上が容易になります。
- 標準のポータル・ソリューションを使用した情報の迅速な共有：新しくバンドルされたアプリケーションの Oracle Instant Portal は、コスト効果の高い構築および保守が容易なコンテンツ・ポータルを必要とする企業および部門向けに設計されたすぐに使用できるポータル・ソリューションを提供します。編集機能には、ポイント・アンド・クリック式のポータル・ブランディングとスタイリング、ページ管理、コンテンツ管理、ユーザー管理、アクセス制御が含まれます。

このリリースの詳細は、Oracle Technology Network (OTN) の『ORACLEAS PORTAL 10.1.4 の[新機能](#)』のホワイト・ペーパーを参照してください。

Oracle Portal 11g の予定

Oracle Portal 11g は、Oracle Fusion Middleware Release 11g Standard Edition (SE) および Enterprise Edition (EE) のコンポーネントとしてリリースされる予定です。Oracle Portal 11g の開発における優先事項は、次の主要リリースのテーマが中心になっています。

- ポータル・サービスとポータル・フレームワークを完全に切り離す新しい Oracle WebCenter Web 2.0 サービスの利用
- オープンな業界標準の延長サポート
- ポートレットとアプリケーション開発の境界の削除
- Oracle Portal 内の既存の機能セットの改良および強化によるポータルの中核的な機能の拡張
- 管理の効率化
- セキュリティの簡素化および拡張
- Oracle Fusion Middleware との緊密な統合
- Oracle Applications との緊密な統合

上記のテーマを反映した Oracle Portal 11g の新機能は、以下のとおりです。

新しい Oracle WebCenter Web 2.0 サービスの利用

- Wiki、RSS、ブログなどの主要な Web 2.0 テクノロジーにより、世界中のあらゆる場所で個人は力をもち、インターネット環境は大きな変化を遂げました。今日の企業が抱える課題は、Web 2.0 のテクノロジーとサービスをユーザーの作業環境の基本構造に組み込むことです。Oracle WebCenter Services は、Web 2.0 の水平型サービス・セットを提供することにより、アプリケーション機能の拡張と企業ポータルに取り組む場合のユーザー・エクスペリエンスの向上を実現します。これらの Web 2.0 サービスには、ディスカッション、Wiki、検索、プレゼンス、インスタント・メッセージング、電子メール、およびドキュメント・ライブラリが含まれます。このような新しい Web 2.0 サービスと追加のソーシャル・ネットワーキング・サービスを Oracle WebCenter Web 2.0 サービスとして使用できます。
- Oracle WebCenter Services に含まれるポートレット・プロデューサは、標準の JSR 168/WSRP プロデューサとして実装されます。WSRP プロデューサとして使用可能で、Oracle WebCenter Services タスク・フローを活用できる事前にパッケージ化された WebCenter アプリケーションが提供されます。プロデューサは、Oracle Portal との統合を容易にする追加のパラメータを公開します。これは、製品の標準機能として認定されます。

Oracle WebCenter Services は、Oracle WebCenter Suite 11g のコンポーネントであり、スタンドアロン製品としても使用できます。

業界標準の延長サポート

- WSRP 2.0 サポート：Oracle Portal 11g は、ADF リッチ・クライアント・テクノロジーで構築された Ajax 対応の豊富なポートレットを含む WSRP 2.0 をサポートします。
- JSR 301 サポート：Oracle JavaServer Faces Portlet Bridge の以下の項を参照してください。

ポートレットとアプリケーション開発の境界の削除

コンテンツの統合

- ポートレットを使用した Oracle Portal のサード・パーティのドキュメント管理システムによるコンテンツの公開。
- コンテンツ管理システムに接続する JCR 1.0 アダプタを利用した Oracle JDeveloper のポートレットの構築。使用できるアダプタには、Oracle Universal Content Management、Oracle Content DB、サード・パーティのコンテンツ管理の JCR アダプタ、ファイル・システムが含まれます。

Oracle WebCenter Suite で使用可能

Oracle JavaServer Faces Portlet Bridge (JSR 301)

- JSF を使用した新しいポートレットの構築
- 標準ベースのポートレットへの JSF ページおよびタスク・フローの変換
- Oracle Portal 11g への既存の JSF アプリケーションの導入

オラクルは、Oracle Portal 11g でリリースされたブリッジの標準を定義する JSR 301 構想の仕様のリーダーです。Oracle JSF Portlet Bridge は Oracle WebCenter Services にパッケージ化されています。

ポータルの中核的な機能の拡張

- OmniPortlet の拡張：Oracle Portal Release 11 は、SQL 問合せやデータベース列などのデータソースに基づいて値リストを動的に移入できる高度なパラメータ・フォームを提供します。また、OmniPortlet の Web サービスのデータソース

が大幅に向上しているため、BPEL および PL/SQL ベースの Web サービスを含む複雑な Web サービスを利用できます。

- BPEL ベース・プロセスのコンテンツ・ルーティングおよび承認：新しいポータル構成設定によって、ポータル管理者は、Oracle Portal のネイティブ機能または Oracle BPEL Workflow を選択でき、Oracle Portal で管理されるコンテンツのルーティングおよび承認を行うことができます。
- 新しい HTML 文書型の宣言 (DOCTYPE) のサポート：新しいポータル構成設定によって、ポータル管理者は、Oracle Portal によって生成される HTML 出力型を指定できます。HTML 4.01 Transitional 以外に 3 つの新しい文書型 (HTML 4.01 Strict、XHTML 1.0 Transitional、XHTML 1.0 Strict) がサポートされます。

管理の効率化

- Oracle Enterprise Manager Release 11 は、Oracle Enterprise Manager インタフェースを使用してポータル・ページ、ポートレット、およびプロバイダのパフォーマンス・メトリックをリアルタイムで表示する機能を提供します。
- 向上したライフ・サイクル・サポート (エクスポート/インポート)：エクスポート/インポートの機能は、新しいユースケースおよび信頼性の向上をサポートします。新しい 2 段階のポータル・エクスポート/インポート・モデルは、コンテンツ指向のエクスポートを頻繁に実行するウェブマスターをサポートします。この簡素化されたエクスポート/インポート・モデルは、ソースとターゲットのポータル・インスタンス間に構成されたデータベース・リンクに基づいて、コマンドラインを通じてエクスポート・ファイルを手動でソースからターゲットのインスタンスに転送する従来の必要性を排除します。このため、Web ブラウザからエクスポート/インポート操作をすべて実行できます。生成されたエクスポート・ログ・ファイルの書式の改善によって、ポータル管理者は、エクスポートの結果やトラブルシューティングの問題を把握できます。新しい直接アクセス・ユーザー・インタフェースによって、エクスポート/インポート・トランスポート・セットの管理および監視が容易になります。

セキュリティの簡素化および拡張

- Oracle Application Server 11g の ID 管理とセキュリティの統合：重要な新しい ID 管理とセキュリティ機能が Oracle Identity Management 10.1.4 に追加されました。そのほかの機能はリリース 11 で導入される予定です。Oracle Portal を更新して、この新しいセキュリティ・フレームワークを組み込みます。また、PDK フレームワークを更新して、WSRP ベースのポートレットへのセキュアな ID 伝播を行う Web サービス・セキュリティをサポートします。

Oracle Fusion Middleware との緊密な統合

- Oracle Secure Enterprise Search (検索送信および検索結果)、Oracle BPEL (通知、タスク分析、レポート作成)、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition (Siebel BI Tools)、および Hyperion System 9 BPM (Business Performance Management) を統合する新しいポートレットは、標準で Oracle Portal とのより高度な統合を実現します。
- Oracle Portal 管理コンテンツへのアクセスの向上：新しい JCR ベース (JSR-170) のアダプタを使用すると、ポータル開発者は、カスタム J2EE アプリケーションのポータル・リポジトリ内に保存および管理されるコンテンツを統合できます。

Oracle Applications との緊密な統合

- Oracle Self-Service Applications などの Oracle Applications Framework に基づく Oracle Applications は、Oracle Portal 内のポートレットとして Oracle Applications Framework に基づいたアプリケーション・ページを公開できます。
- Oracle Portal Release 11 は、PeopleTools リリース 8.48 テクノロジー・レイヤーに基づく PeopleSoft バージョン 9 を含む PeopleSoft アプリケーションからのポートレットの組込みもサポートします。
- Oracle Portal 10.1.4 で Oracle E-Business Suite リリース 11 および 12 を使用できるように、Oracle E-Business Suite の特定リリースのポートレットを Oracle Portal Release 11 で使用できます。

全体的に、これらの機能は、Oracle Portal 10g Release 2 (10.1.4) で導入された機能に基づいて構築および拡張され、Oracle Portal の顧客から受け取った提案やフィードバックが組み込まれます。

Oracle WebCenter Suite 製品戦略の概要

Oracle WebCenter Suite は、統合された、コンテキスト認識型のユーザー・エクスペリエンスを提供する統合テクノロジー・セットで、特にインフォメーション・ワーカーのニーズをターゲットにしています。Oracle WebCenter Suite は、標準ベースで宣言型開発環境の JavaServer Faces (JSF) とポータル・テクノロジーの柔軟性や能力、そして一連の Web 2.0 水平型サービスを組み合わせます。Oracle WebCenter Suite 11g パッケージには、Oracle Content Server、Oracle Secure Enterprise Search、Oracle Presence、Oracle BPEL Process Manager の限定的な使用と、Oracle WebCenter Services、Oracle WebCenter Interaction、Oracle WebCenter SharePoint Console、Oracle WebCenter .NET Application Accelerator が含まれます。Oracle WebCenter Services コンポーネントは、Oracle WebCenter Framework、Oracle BPEL Worklist、Oracle Universal Content Management アダプタ、Oracle JavaServer Faces Portlet Bridge、JSR-168 コンテナ、カスタマイズ可能なコンポーネント、ソーシャル・ネットワーク要素 (ディスカッション、Wiki、検索、プレゼンス、インスタント・メッセージング、電子メールなど) をバンドルします。これらのツールとサービスを Enterprise 2.0 に統合することで、コンテキスト・シフトを排除して生産性を最大限に向上させるアプリケーションを構築するという、独特の機能が組み込まれます。Oracle WebCenter アプリケーションは、ユーザーがアプリケーションのコンテキスト内で、インスタント・メッセージング、ドキュメント、コンテンツ、VoIP、ディスカッション・フォーラム、Wiki などのサービスを使用して直接やり取りできるようにします。ユーザーは、アプリケーションを介してこれらのサービスを使用するのではなく、これらのサービスがタスク・フローのネイティブ・パーツとして統合されます。

ポータル・テクノロジーの観点から、Oracle WebCenter Suite は、従来ポータルとして扱われていたものと公開されるアプリケーションとの障壁を排除します。Oracle WebCenter Suite を使用すると、ポータル機能が開発アーキテクチャの基盤 (JavaServer Faces) に挿入されます。このため、コンテキスト・リッチでシームレスかつカスタマイズ可能なユーザー・エクスペリエンスを実現するアプリケーションの構築および管理が非常に簡単になります。すべてのタイプのユーザー・インタラクションを開発するテクノロジー・スタックの統合は、最新の SOA ベースの複合アプリケーションの構築で重要です。JavaServer Faces は、J2EE コミュニティの固有のテクノロジーの選択肢です。

Oracle WebCenter Suite とそのコンポーネントの概要の詳細は、Oracle Technology Network (OTN) の "Learn more" の項の補足情報 (<http://webcenter.oracle.com> からアクセス可能) を参照してください。

Oracle Portal の顧客に向けた推奨事項

Oracle WebCenter Suite のリリースによって、Oracle Portal の顧客は、新しい J2EE ベースのアプリケーション・フレームワークおよびアーキテクチャに構築される新しいアプリケーションを展開して、既存のポータルを拡張できます。この新しいテクノロジーを適切に利用する方法は、次のとおりです。

- Oracle WebCenter Suite は、Enterprise 2.0 の基盤を提供するオープンで標準ベースの、事前に統合された最善の製品の包括的なセットであり、4 つの個別のテーマ（コンテンツ管理、コミュニティと社会の連携、SOA とワークフローを含む複合アプリケーション、インターネットとイントラネットの Web プレゼンス）を統合します。新しいプロジェクト（とくに豊富なコラボレーション機能を必要とするプロジェクト）で使用する Oracle WebCenter Suite および Oracle WebCenter Services 機能を慎重に評価します。テスト環境をインストールして、プロトタイプ・アプリケーションを構築します。Oracle WebCenter Suite は、ソーシャル・ネットワーキングの統合とともにポータル機能をこれらのアプリケーションに組み込むことを目的にしており、J2EE ベースの Oracle Fusion Middleware アプリケーションを開発する企業にとって、もっとも魅力的です。Oracle Portal と組み合わせて実行する既存のポータルの拡張に Oracle WebCenter Suite を使用します。たとえば、Oracle WebCenter Suite を使用して新しいプレゼンス認識型のトランザクション・アプリケーションを構築し、既存の Oracle Portal 配置に戻すことができます。このアプリケーションは一般的なルック・アンド・フィールを利用しており、一般的なポートレットを含む可能性があります。
- 新しい Oracle WebCenter Suite アプリケーションに対して Oracle Portal で使用される既存の ID 管理インフラストラクチャを活用します。これによって、シームレスなユーザー・エクスペリエンスのシングル・サインオンが可能になり、ディレクトリに格納されるユーザー・プロファイル情報を活用できます。
- WSRP 標準や PDK-Java に準拠しているかどうかに関係なく、すべての既存のポートレットを活用します。Oracle WebCenter Suite カスタム・アプリケーションと Oracle Portal 内で両方のポートレット・タイプを利用できます。オープン・スタンダード（WSRP および JSR 168）を使用して、新しいポートレットを構築します。
- Oracle WebCenter ベースのアプリケーション内の Oracle Portal Repository にあるコンテンツのアクセスおよび公開を行う場合、JCR ベース・アダプタを構成して Oracle WebCenter のコンテンツ統合機能を使用します。新しいコンテンツ中心のアプリケーションでは、Oracle Universal Content Management を使用する必要があります。

結論

オラクルのポータル・テクノロジーの戦略は明白です。俊敏性を備え、変化するビジネス要件をサポートするすべてのタイプのポータル（エンタープライズ・ポータル、LOB 固有のポータル、スタンドアロンのポータル・アプリケーション、アプリケーション内に組み込まれたポータル機能）について、顧客が構築およびデプロイできるよう、強力なテクノロジー、ツール、およびアプリケーションを提供するということです。

ポータル・テクノロジーに関するオラクルの計画は、ポータル市場およびポータルの構築と拡張にブラウザ・ベースのツールを必要とするビジネス開発者のニーズにも一致します。Oracle Portal は、今後もこの市場にとって重要になります。将来、Oracle WebCenter Suite の戦略製品セットに組み込まれる予定です。つまり、Web キャストの [BEA Welcome and Oracle's Middleware Strategy Briefing](#) で発表されているように、Oracle Portal は "Continue and Converge" 製品カテゴリに属するということです。Oracle WebCenter は、全体的にユーザー・インタラクションに対応します。これによって、SOA および Fusion アーキテクチャ内で使用するために微調整され、ポータル開発および J2EE アプリケーション開発の間の障壁を排除する J2EE 開発者に強力な機能セットが提供されます。

顧客は、最初に Oracle Portal と Oracle WebCenter Suite の共存を選択できるので、既存の Oracle Portal の投資を活用できます。同時に、上述した 4 つの個別のテーマ（コンテンツ管理、コミュニティと社会の連携、SOA とワークフローを含む複合アプリケーション、インターネットとイントラネットの Web プレゼンス）を含む Oracle WebCenter Suite が表に導入した新しい Enterprise 2.0 中心の革新に対応します。両方の製品は、重要な情報へ迅速かつ容易にアクセスできる環境をユーザーに提供し、ユーザーを管理します。また、日常的なビジネス・プロセスに関連する情報に基づいて動作し、効果的に連携して主要な成果を取得します。ソリューションを最小コストで生産的に開発、展開、および管理できます。

こうした目標は、オラクルの鍵となる技術と一致します。構造、情報への動的アクセス、中央配置など、ポータルまたはアプリケーションを非常に強力にする多くの概念は、常にオラクルのテクノロジーおよびビジョンの中心にあります。上記で説明したようにこれらの機能に基づいて構築を進め、オラクルは今後も次世代製品の先頭に立ち続けていきます。

ORACLE FUSION MIDDLEWARE

Oracle Portal

2009年3月

著者：Product Management、Oracle Enterprise 2.0 およびポータル製品

Oracle Corporation
500 Oracle Parkway
World Headquarters
Redwood Shores, CA 94065
U.S.A.

海外からのお問い合わせ窓口：
電話：+1.650.506.7000
ファクシミリ：+1.650.506.7200
www.oracle.com

Copyright © 2008, Oracle. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。Oracle、JD Edwards、および PeopleSoft は、米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。